

# 江別ユネスコ協会の誕生まで

発行/江別ユネスコ協会（事務局-江別市教育委員会 生涯学習課内 ☎011-381-1069）

◇これは1992年発行の冊子「江別ユネスコ協会・10年のあゆみ」から当時の田村邦雄事務局長の文章を転載したものです。

記憶がなくならないうちに、江別ユネスコ協会が設立されるまでの経緯について、書き留めておきたいと思います。

「江別にユネスコ協会をつくろう」という声は、実は1960年代からありました。しかし、それは概ね札幌ユネスコ協会など近隣都市の関係者や、教育委員会の関係者からの、“要望”に近い声であって、市民の中からはあまり積極的な動きは現れませんでした。それが、1970年代に入り次第に都市化が進む中で、市内の知識人の中にユネスコ協会設立を熱心に提唱する方が現われて、協会設立の機運が急速に熟していました。

協会設立の直接の導火線となったのは、北海道ユネスコ連絡協議会と江別市教育委員会が共催した1979年（昭和54）3月の「江別ユネスコの集い」です。このときは道ユ協から橋本俊彦会長・丹羽三郎副会長（現会長）、高校ユ協の前田博富氏、札幌ユ協の木内進副会長らが江別を訪れ、住吉匡氏（道ユ協副会長）が「世界の相互理解について」と題する講演をされました。このときの感想を井上元則氏（道栄養短大教授）は、北海タイムス紙に次のように書いています。

「江別には現在ユネスコ関係の団体がほとんどなく、市民にも馴じみが薄いため、世界の平和と人類の福祉を、教育・科学・文化の各分野の人々によって実現しようとするユネスコ思想普及を目的に、「江別ユネスコの集い」が3月3日初めて開かれ、住吉匡先生の「世界の相互理解について」の大変有益な講演があった。私ども市民は、世界の市民でもあることを考えると、人類生存に係わる諸問題（環境・資源・人口・食糧・平和等）に直面している。地球上の市民として全ての民族を超越して連帯感を深めることが第一で、江別市民としても平素、家庭・地域・職場で何を為すべきかを考える会であった。

私は長いあいだ社会教育に携わってきたが、ユネスコが最も大きな成果をあげたと思うのは、1965年ごろポール・ラングラン（ユネスコ教育局継続教育部長）が発表した生涯教育の理念だと思う。今日の社会教育は生涯教育の中で推進され、大きな成果をあげている。この日の講演の中で掲示された表によると、世界で一番たくさんのノーベル賞を獲ったのはアメリカで、日本はビリの方だった。日本語で発表した物や外国人に読まれる機会が極めて少ないので、いくら優秀な論文や文学などをものにしても、すぐには世界から認められにくいという。そういうハンディをなくすには、日本人はもっと語学力を養うことが必要になる。特に各国民の間に意思の疎通を図るには、語学力をもっと身につける工夫が必要である。（下略）

[ 1979・3・5、えぞまつ欄 ]

この「江別ユネスコの集い」を契機に、協会設立の機運はいっそう高まりましたが、すぐには具体化しないまま時間が過ぎたので、やがて教育委員会の担当係（社会教育係）へ設立促進を要望する市民の声が直接とどくようになりました。道ユ協の方でも熱意を

もって促進にあたり、筆者自身も橋本俊彦会長（当時北海学園大教授）から直接、活動の進めかた等について指導を受けた記憶があります。当時、教育委員会の担当者は藤倉徹夫氏（社会教育係長）でしたが、1980年（昭和55）12月に至り、設立の機は熟したとみて、とりあえず入会希望者の目途をつけるため、市の広報誌で会員を募ることにしました。「広報えべつ」の1981年1月号には次のような記事が載りました。

### 「江別ユネスコ協会ーあなたも入りませんか？」

ユネスコとは、教育・科学・文化などの各分野での各国との交流を通して、世界の平和と人類の福祉を願う機関です。

市教委では、このユネスコ活動を江別市においても行なおうと、ただいま「江別ユネスコ協会」の設立準備を行っていますが、これと並行して、この会員の募集を行っています。ご希望の方はハガキに氏名・住所・電話番号を記入のうえ、江別市教育委員会社会教育課へお送りください。くわしくは市教委社会教育課へお問い合わせください。

この募集活動にこたえて10余名の市民が入会の意志を表わしたので、担当者は次の作業として、設立準備委員会を発足させることにしました。当時のメモによると、そのときの経過報告書には、次のように書かれています。

### 「江別ユネスコ協会の設立準備について（報告）

標記の件については、過般来、岩田政勝・山下勝・井上元則等の諸氏より、当市におけるユネスコ活動を展開するため、設立方協力の要請があったところであるが、当委員会として「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（第23条＜教育委員会の職務権限＞15. ユネスコ活動に関すること）に基づき、かつ又、「社会教育法」第3条に規定する条文の旨を体して、一定の指導援助をすることが適當と判断されるので、これが設立の協力をしようとするものである。なおこれが設立準備と並行して「広報えべつ」1月号にて入会申込者を公募したところ、別添名簿のとおりの希望者があり、これらの人々を中心に準備委員会を構成し、以降の展開を図ろうとするものである。」

しかし、1981年4月に社会教育係長は星忠雄氏に替わったため、準備委員会の発足はすこし遅れ、同年9月28日に第1回会議がようやく開かれました。このときのメンバーは、委員長に山下勝、副委員長に池永和親・鈴木敬夫・松井典子、事務局長に田村邦雄、委員に角幡俊夫・白井祐子・中村斎・浜辺睦子・松沢望の各氏でした。委員はそれぞれ作業を分担して設立総会の準備に掛かりました。

江別ユネスコ協会の設立総会は、1981年12月6日に市民会館37号室で、北海道ユネスコ連絡協議会の橋本会長、山田江別市長、伊藤教育長ほか多数の来賓を迎えて開催されました。（出席者約110名）この総会は池永和親氏の司会で進められ、議長団に安宅嘉美・伊藤トミノの両氏を選出して会則・事業計画・予算案を審議したのち、役員選考委員に石黒良平・角幡俊夫・高田寛司・藤原隆・田村邦雄の5氏を選出して初代役員を選出しました。総会のあと懇談会が開かれ、鈴木敬夫氏の軽妙な司会で和やかに歓談しました。こうして江別ユネスコ協会は誕生し、初代会長・山下勝氏を中心に、活動の第一歩を踏み出すことになったのです。※1982年2月に会員数147名に達しています。